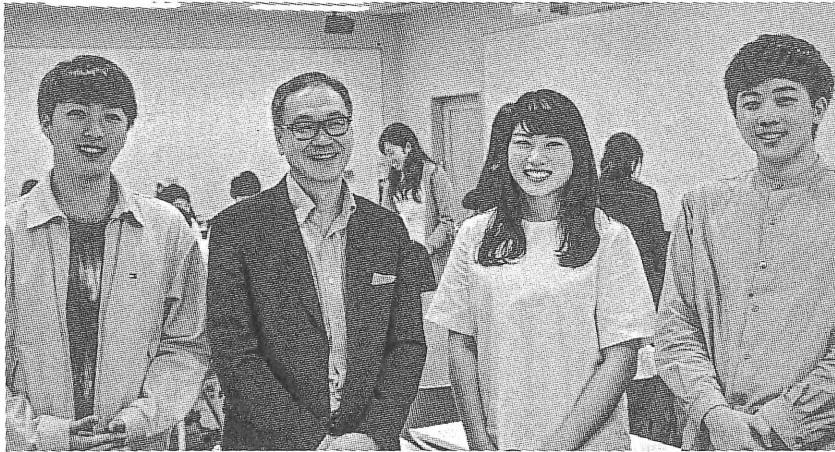


大学解体新書

其の陸

北の外国語学校の魅力を語る。



左から岸本さん、近藤教授、千村さん、澤邊さん

北の外国語学校と呼ばれるほど、普通から語学に力を入れてきた小樽商科大学。海外留学を

盛んに行っており、ビジネスや社会に必要なスキルを身につけ、実践的に商業を学ぶことが出来る。

商大生の就職についてキャリア支援室の半田寿さんに話を聞いた。商大の学生は大手企業へ就職する学生が多く、就職率も毎年九十%以上を誇る。就職先は道内外同じくらいの割合いだ。金融関連の企業への就職が多いが、最近の傾向として公務員になる人も増加している。

商大やゼミの魅力を近藤公彦教授と教授のゼミを受講している岸本隼さん(三年生)と千村朱里さん(四年生)、澤邊友斗さん(四年生)に話を聞いた。近藤教授はゼミの特

徴を聞くと「ゼミ全体が株式会社である」と答える。学生ベンチャーとして株式会社iivacsを運営している。五十グループの三百人で活動している。主に狸小路の活性化を目標に経営・マーケティングを実践している。

ゼミについて岸本さんは、自分の意思で自由に企画や活動を推進できる所が性に合っている。既存の商品がどのようにすればもっと売れるようになるのかをゼミ以外の時間もよく仲間と話し合っていると述べた。

オーストリアに留学した千村さんは、現地住民の生活を知るためにあえて地方に赴いた。しかし、想像以上に移民が多くとても驚いたという。アジア人差別を受けたのは大変だったものの、ビールやワインはとてもおいしかったと思いを嬉しそうに語った。

澤邊さんは総合商社への内定を決めている。なぜ総合商社にしたのか理由を聞くと「有名な企業と裏で大きなやり取りをしている社員の姿がカッコよく見えた」と語る。

最後に、大学受験を控える高校生へ向けて澤邊さんは、自分の努力は自分しかわからない。息を詰めすぎないでポジティブに考えることが成功の秘訣。「自分に合った勉強法とペースで勉強し、自信を持って受験して欲しい」と話した。